

目的

- ◆知的障がい特別支援学校における限られた社会科の授業時数の中で、効果的に主権者としての「知識・技能」や「意識」を生徒が身に付けるための「3年間を見通したカリキュラム開発」を行う。
- ◆学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいという知的障がいのある生徒に対して、選挙の仕組みの理解、主権者意識の醸成及び高まりを効果的に促す取組を地域資源の活用によって行う。

平成30年度の取組

熊本日日新聞社NIE班との連携



- ◆情報収集するツールとして新聞を活用する

熊本市議会の見学



立法権

- ◆実際に議会を見る
- ◆生徒会行事の提案、審議

熊本市選挙管理委員会による出前授業



- ◆熊本市選挙管理委員会からの講話と模擬投票

令和元年度の取組と結果

NIE実践指定校(1年目)

- ◆情報収集ツールとしての新聞活用
- ◆知的障がい特別支援学校における新聞活用事例の収集



NIEタイム

他教科と関連付け、学習の効果を高める



数学

理科

体育

- ◆新聞4紙の読み比べ
 - ・同じ日でも取り扱われている内容が違うことへの気付き
 - ・同じ内容の記事でも、書かれ方やニュアンスの違いへの気付き
- ◆生徒へのアンケート結果(高等部25人、回答数23)

設問	回答項目	人
NIEで世の中のニュースへの関心は高まったか	はい	15
	いいえ	2
	前と変わらない	6
NIEは楽しかったか	はい	18
	いいえ	4
	分からない	1

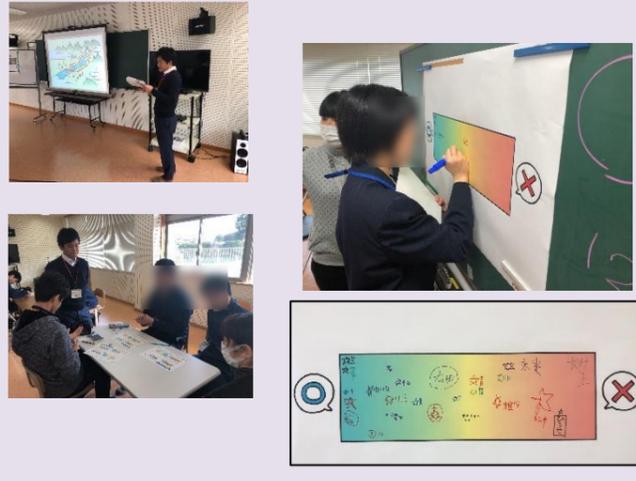
◆家庭での変化(連絡帳より)

- ・病院の待合室で新聞を広げていた。学校の学習で興味があるようです。
- ・冬休みは新聞を取りに行き、朝から読んでいた。学校での学習が身に付いているようです。

司法書士会との連携「法律教室」

司法権

- ◆法律(きまり)の必要性の理解
- ◆「法解釈」について学ぶことにより、合理的な決定(自己選択, 決定のプロセス)を体験



◆ワークシートより

- ・班のみんなで、意見を出し合うのをがんばった。いい決まりか悪い決まりかを考えるのが難しかった。
- ・話が分かりやすかった。決めるときに少し迷った。
- ・自分で考えることができた。
- ・みんなが違う解釈で面白かった。機会があったら、また法律のことを学びたい。
- ・法律はたくさんの方が話し合っ、国民のより良い暮らしを考えて決めているということが分かった。
- ・(話の筋から)「〇〇だったら賛成」だけど、「△△だったら反対」と考えることができた。
- ・みんなの違った意見を聞いて悩むことがあったけど、自分の意見をもつことができた。

熊本市選挙管理委員会による出前授業

- ◆選挙の必要性の理解
- ◆模擬投票による自己選択, 決定のプロセスを経験



◆生徒へのアンケート結果(高等部25人、回答数23)

設問	回答項目	人
選挙のことを意識するようになったか	意識するようになった	11
	少し意識するようになった	10
	前と変わらない	2
模擬投票で自分の考えをもつことができたか、自分の考えに近い方に投票できたか	はい	17
	いいえ	3
	どちらともいえない	3

◆アンケート用紙への感想欄から

- ・模擬投票で自分で考えて選んだ。
- ・18歳になると投票できることが分かった。投票用紙の工夫が分かった。実際の選挙で投票するのは緊張すると思う。
- ・18歳になって選挙権を得たら選挙に行きます。
- ・自分の考えをもって投票することが大切だと思う。
- ・18歳になったときに不安なく選挙に行ける。
- ・もっとニュースや新聞を見て選挙に行こうと思う。

令和2年度の取組(予定)

NIE実践指定校(最終年度)

- ◆令和元年度の取組を深化させ、各教科での新聞活用→情報収集能力の向上

九州財務局との連携(出前授業)

行政権

- ◆予算の編成について学ぶことにより、行政システムについて知る

熊本市選挙管理委員会による出前授業

- ◆3年間継続した取組により、理解度の向上

まとめ(令和元年度の実践より)

- ◆NIEの取組では、新聞が身近にあること、授業で使用することが当たり前となり、NIEが楽しかったと答える生徒数から新聞への抵抗感がなくなったと言える。世の中の出来事についての関心も高まり、家庭での変容が見られる生徒も出てきた。
- ◆司法書士会との連携により、法律の必要性に加え、ある決まりについて単純に賛成か反対だけではなく、解釈に幅があることを学ぶことができた。
- ◆熊本市選挙管理委員会の出前授業では、学習を行ったことで確実に選挙に対する意識が高まったことが分かる。特に1・2年生よりも3年生の方が選挙に対する意識が高いという結果から、3年間継続して出前授業を受ける意義があることも分かった。

- 「主権者意識の醸成, 高まり」を目指すカリキュラムの在り方としては、3年間で立法・司法・行政の三権について学ぶようにすることと、3年間継続して選挙制度等を学ぶシステムを合わせて行うことが効果的である。
- 幅広い情報の収集やメディアリテラシーについて学ぶ意味で新聞を活用することは効果が高い。
- 地域資源を活用することで、三権分立や政治システム等についての理解を促しやすい。

自ら考え、選択・決定する力の育成